

仙人通信 174 大持山(1294m)・子持山(1273m)

大持山は、秩父武甲山から南に伸びる尾根上に座し、武甲山と同じ三畳系の橋立層群の石灰岩や赤褐色のチャート質の山で、3等三角点の山でもある。

名郷にある山中林道の妻坂峠登山口の駐車場に車を置き、妻坂峠→大持山→子持山→大持山→ウノタワ→横倉林道を経由して車に戻るコースとした。

登山口を示す道標は無いも、小さな沢に架かった鉄板を敷いた橋から檜林の中の沢沿いに伸びるコースだ。周囲には、カキドウシ・キランソウ・オオニガナ・ネコノメソウ・ヤマハコベ・キケマン・ムラサキケマンそしてフタリシズカも先端に蕾のついた緑の穂を伸ばし、正に春の花のオンパレードだ。20分程で沢筋から離れ九十九折のコースとなる。

綺麗に整備された檜林の中にミミガタテナンショだ。20分程で落葉樹の妻坂峠に到着だ。お地蔵様が祀られているこの峠は、秩父と飯能・青梅を結ぶ嘗ての峠道である。

ニリンソウやハシリドコロが花を付け元気をくれる。休憩後、尾根を西に向かい進む。

南側は先程の檜林であるが、北側はアセビや水檜等の新芽で覆われた登りである。30分程登ると最初のピークとなり南側も落葉樹林となる。生き活きたコバイケイソウの新芽も綺麗だ。白い花を付けた山桜そしてブナ・リョウブ等も加わり春の芽吹きを奏でる。北側が檜林となりカタクリの花も観られる。4つ目のピークを過ぎた登りでは、スマレ・エイザンスマレ・キジムシロだ。峠から1時間15分程でウノタワ方面と大持山との分岐点である。アセビ・カタクリそして赤紫のアカヤシオの花を見ながら10分(スタートから2時間強)で山頂へ到着である。ここからは子持山に向かう緑に覆われた露岩の多い痩せ尾根である。山桜・アセビ・アカヤシオの花が楽しめる反面、遠望が利かない。最初のピークの展望台では、遠くに雲取を中心とした山並みが、手前には熊倉や秩父御岳等を見る事ができた。その先では東側に西武球場のドームを中心に望めた。40分程で子持山の山頂である。

武甲山等をしばし眺め休憩後、大持山からウノタワの分岐へと戻る。このポイントからは南面が開け、新緑に覆われた有間山等だ。数分下ると又もや南面は檜林で覆われるも、西側は水檜等の落葉樹のかなり急な下りである。分岐から35分でウノタワである。ここは鞍部で楕円状の盆状の湿原だ。地元で鶺鴒が集まる所として鶺鴒の田と称した事が語源とある。

湿原を横切り盆の縁に立つと、遥か下に向かう登山道が水檜等の梢越しに見える。コースは、風化した石灰岩の微砕体が播り鉢の底に向い九十九折して下がって行くのが確認される。

慎重に25分程下降するとウノタワを示す道標で、ここから先は沢沿いのコースだ。スタート時と同様な花々を確認し、15分程で横倉林道へ出た。林道の崖では白い卯ノ花や咲き始めたヤマアジサイ・ウラシマソウだ。春の花々・瀬音や小鳥の囀りに充たされ35分で車に戻る事が出来た、5時間半(25000歩)の春を満喫した山旅でした。(h30. 4. 27)

大持山山頂



アカヤシオ



岩の露呈した尾根



子持ち山山頂